

岐阜県における巨樹,巨木林の生育状況について

誌名	岐阜県林業センター研究報告
ISSN	03887847
著者	中川, 一
巻/号	23号
掲載ページ	p. 19-28
発行年月	1995年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



岐阜県における巨樹、巨木林の生育状況について

中川 一

目 次

はじめに	19	2.5 保護	24
1 試験方法	19	2.6 周囲環境	24
2 結果と考察	20	2.7 立地環境別分布	25
2.1 地域別分布	20	2.8 巨木林	26
2.2 所有別分布	22	まとめ	26
2.3 健全度	23	引用文献	27
2.4 樹齢	23		

はじめに

巨樹、巨木林は、ふるさとのシンボルであり、貴重な文化的、遺伝的な遺産として長く保護管理されることが強く望まれている。環境庁は、1988年度、第4回自然環境調査の一環として都道府県に委託して巨樹・巨木林調査を実施した。この調査については、日本全体、または都道府県別の樹種分布、最大直径木等についてまとめられて報告された(6、7)。

岐阜県は、標高では0~3,000mまで分布し、雪の少ない南部と豪雪の北部があり地形、気候等の自然条件が大きく異なっている。また、飛騨地域と美濃地域でも異なった文化が創られているため、岐阜県の地域を同一視することが出来ない。そこで、岐阜県内の巨樹、巨木林の生育状況を明かにするとともにこれらを保護管理するための基礎資料を得るため、巨樹・巨木林調査資料を解析した。

1 試験方法

巨樹・巨木林調査において、調査対象は、高さ1.3mにおける幹周囲が300cm以上、複幹の場合には主幹の周囲が200cm以上で幹周囲の合計が300cm以上の樹木である。巨樹は、調査対象基準以上の樹である。巨木林は、巨樹が複数生育する集団で、樹林、並木がある。

巨樹・巨木林調査表の内容、並びに国土地理院5万分の1地形図を用いて作成された巨樹・巨木林分布図から読み取った立地環境をデータベース「桐」に入力して地域、樹種別に解析した。判読した立地環境は、標高、地形、斜面方位である。

地域区分は、図-1に示すように岐阜県内を岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地域に区分した。岐阜は、岐阜市、羽島市、各務原市、羽島郡、本巣郡、山県郡の区域である。西濃は、大垣市、海津郡、養老郡、不破郡、安八郡、揖斐郡の区域である。中濃は、美濃市、関市、武儀郡、郡上郡、美濃加茂市、可児市、加茂郡、可児郡の区域である。東濃は、多治見市、瑞浪市、土岐市、土岐郡、中津川市、恵那市、恵那郡の区域である。飛騨は、

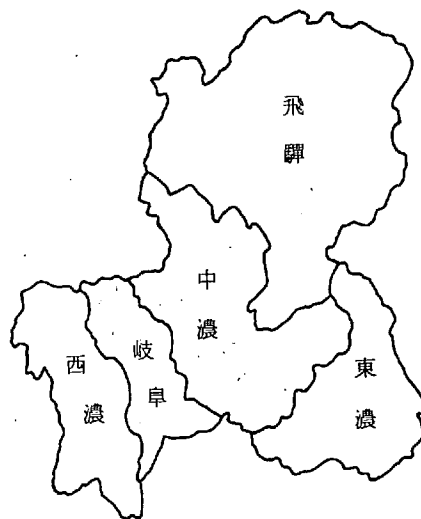


図-1 地域区分

益田郡、高山市、大野郡、吉城郡の区域である。

樹種については、種名、総称名、俗名等の名前で調査されているため、次のようにまとめた。ナラ類は、コナラ、ナラ、ミズナラをまとめた。カシ類は、アカガシ、アラカシ、イチイガシ、カシ、ツクバネガシをまとめた。サクラ類は、エドヒガン、サクラをまとめた。マツ類は、アカマツ、クロマツ、ヒメコマツ、マツをまとめた。カエデ類は、イタヤカエデ、イロハカエデ、カエデ、ハナノキ、ヤマモミジをまとめた。モチノキ類は、クロガネモチ、モチノキをまとめた。コウヤマキは、コウヤマキ、マキをまとめた。ヒバ類は、アスナロ、ヒバをまとめた。ヤナギ類は、シダレヤナギ、ヤナギをまとめた。シデ類は、アカシデ、シデをまとめた。ビャクシン類は、イブキ、ビャクシンをまとめた。

2 結果と考察

2.1 地域別分布

巨樹、巨木林を単木、樹林、並木の生育形態に区別した場合、地域の分布割合を図-2に示した。形態は単木、樹林、並木に分けられているが、単木とは、巨樹が単体で生育しているもので、これには巨樹の周囲には他の樹木が生育していない場合と、周囲に樹木が生育しているも巨樹の周囲には調査対象基準以下である場合とがある。樹林とは、巨樹が複数生育しており、面的な広がりをもつものである。並木とは、巨樹が複数生育するもののうち、線的なものである。

形態別では、単木663件、樹林294件、790本、並木19件、37本で、合計976件、1490本である。なお、「第4回自然環境保全基礎調査、日本の巨樹・巨木林、東海版」では合計1289件、1495本と本数では巨樹でないものも含まれたり、件数では取扱いの違いにより異なった値となっている。形態を本数割合で見ると樹林53%、単木44%占めて多いが、並木は2%と少ない。岐阜県内に生育する巨木は、測定木で1490本であり、全国で10番目に多い(6)。

合計件数、本数を地域別に見ると、飛騨が357件、573本と最も多く、東濃が135件、163本、岐阜が109件、119本と少ない。単木では東濃が最も少なく、樹林では岐阜が最も少ない。

巨樹・巨木林の生育形態を樹種別にみた本数割合を図-3に示した。

単木で生育する割合が多い樹種は、エノキが90%で最も多く、ムクノキ、マツ類、クスノキ、トウヒが80%以上で多く、サクラ類、カヤ、カツラ、イチイが70%以上で多い。この場合の単木は、近くには巨樹が生育していないことであ

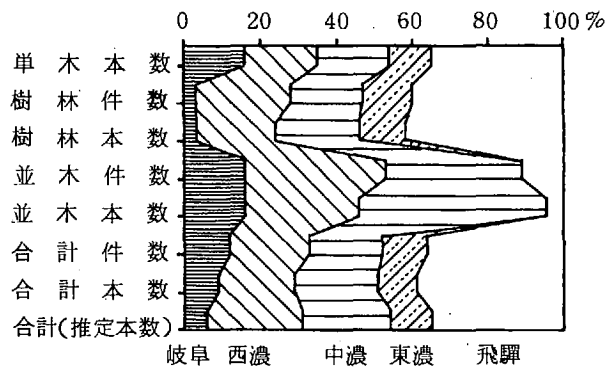


図-2 地域別形態

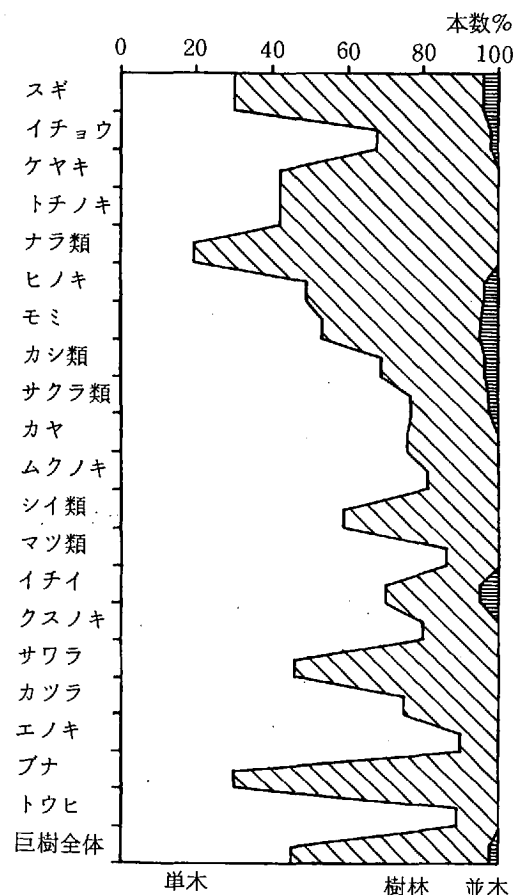


図-3 形態別割合

表-1 地域別樹種分布 (全体)

No.	樹種	全県	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨
1	スギ	705	46	130	222	90	217
2	イチョウ	109	19	26	16	9	39
3	ケヤキ	107	7	52	10	12	26
4	トチノキ	78	4	3	3	3	65
5	ナラ類	63	1	—	1	4	57
6	ヒノキ	51	3	7	10	10	21
7	モミ	43	4	9	3	10	17
8	カシ類	39	3	18	10	5	3
9	サクラ類	35	5	—	8	3	19
10	カヤ	29	1	5	9	7	7
11	ムクノキ	27	13	10	3	—	1
12	シイ	22	5	17	—	—	—
13	マツ類	22	1	6	2	—	13
14	イチイ	20	—	—	—	1	19
15	クスノキ	15	5	10	—	—	—
16	サワラ	14	—	—	—	2	12
17	カツラ	12	—	—	—	—	12
18	エノキ	10	5	1	2	1	1
19	ブナ	10	—	—	—	—	10
20	トウヒ	9	—	—	—	—	9
21	カエデ類	8	1	—	4	2	1
22	タブノキ	8	1	6	1	—	—
23	モチノキ類	8	5	3	—	—	—
24	クリ	4	—	—	—	—	4
25	コウヤマキ	4	—	—	1	—	3
26	ツガ	4	—	—	3	1	—
27	センノキ	3	—	—	—	—	3
28	ヒバ類	3	—	—	3	—	—
29	ヤナギ類	3	1	—	1	—	1
30	クヌギ	2	—	—	—	1	1
31	シデ類	2	—	—	1	1	—
32	ダケカンバ	2	—	—	—	—	2
33	ネズコ	2	—	—	—	—	2
34	ビャクシン類	2	1	—	—	—	1
35	カゴノキ	1	—	—	1	—	—
36	カラマツ	1	—	—	—	—	1
37	キハダ	1	—	—	—	—	1
38	キンモクセイ	1	1	—	—	—	—
39	サカキ	1	—	1	—	—	—
40	サルスベリ	1	—	—	1	—	—
41	サワグルミ	1	—	—	—	—	1
42	シナサワグルミ	1	1	—	—	—	—
43	ツゲ	1	—	—	—	—	1
44	ナシ	1	—	—	—	—	1
45	ヒイラギ	1	1	—	—	—	—
46	ホオノキ	1	—	—	—	—	1
47	ムクロジ	1	—	—	—	1	—
48	メタセコイア	1	—	—	—	—	1
49	ヤマモモ	1	1	—	—	—	—
合計		1,490	135	304	315	163	573

る。トウヒ以外の樹種は孤立した単木でも、樹林の中でも生育するが、トウヒは、高い標高の亜高山帯常緑針葉樹林を構成する代表的樹種で孤立して生育することはほとんど無い。したがって、トウヒの巨樹が生育する場所は、巨樹の近くには調査基準以下の小さい樹ばかりで、巨樹が複数生育することが少ないことを示している。

樹林中で生育する割合が多い樹種は、ナラ類が81%で最も多く、スギ、ブナが60%以上で多い。これらは、一般に樹林を形成して生育することが多く、樹林の中に巨樹が生育していれば近くに何本かの巨樹が生育していることが多いことを示している。

巨樹が樹種別、地域別に生育する本数を表-1に示した。また、主要樹種の地域別の本数割合を図-4に示した。

巨樹本数の約半分である705本がスギである。次に多いのは、イチョウ、ケヤキ、トチノキ、ナラ類の落葉樹が多く、次いでヒノキ、モミ、カシ類、サクラ類、カヤの順で多い。

全国の巨樹本数は、スギが13,681本で最も多く、次いでケヤキ、クスノキ、イチョウ、スダジイ、タブノキ、ムクノキ、モミ、エノキ、クロマツの順である(6)。暖温帯に生育する常緑広葉樹は、岐阜県ではカシ類が第8位にあるだけで少く、全国ではクスノキ3位、スダジイ5位、タブノキ6位と多く、岐阜県ではやや寒い地域の樹種が多くなっている。

県内5地域では巨樹分布に特色があり、巨樹本数の多い20種では次のとおりである。岐阜県では、平地または河川に近い地域に多く生育するニレ科に属すムクノキ、エノキが約50%と多い。西濃では、ニレ科のケヤキと暖温帯に生育する常緑広葉樹のクスノキ、ブナ科のカシ類、シイ類が約50%以上と多い。飛騨では、冷温帯に生育するカツラ、ブナ、亜高山帯に生育するトウヒが100%と全てが分布し、ナラ類、トチノキ、イチイ、サワラが80%以上、サクラ類、マツ類が50%以上と多く生育する。岐阜県でも南部の岐阜、西濃では暖地性の樹種が多く、飛騨では寒地性の樹種が多い。中濃、東濃では気候的に岐阜県の中に位置するためか、樹種分布に特色が少ない。

2.2 所有別分布

巨樹の所有別の本数割合を図-5に示した。

巨樹全体の所有別の本数割合は、社寺が72%と大部分を占める。長寿で巨樹の多いスギでもha当たりの年平均成長量は30~70年で最大となり(10)これ以上育てても単位面積当たりの収穫量が減ることになる。この時期では直径はまだ小さくとも巨樹までには至っていない。他の樹種でも木材、薪炭材生産用の山林では巨樹まで育成することは生産効率が悪いこととなる。また、岐阜県では江戸時代、

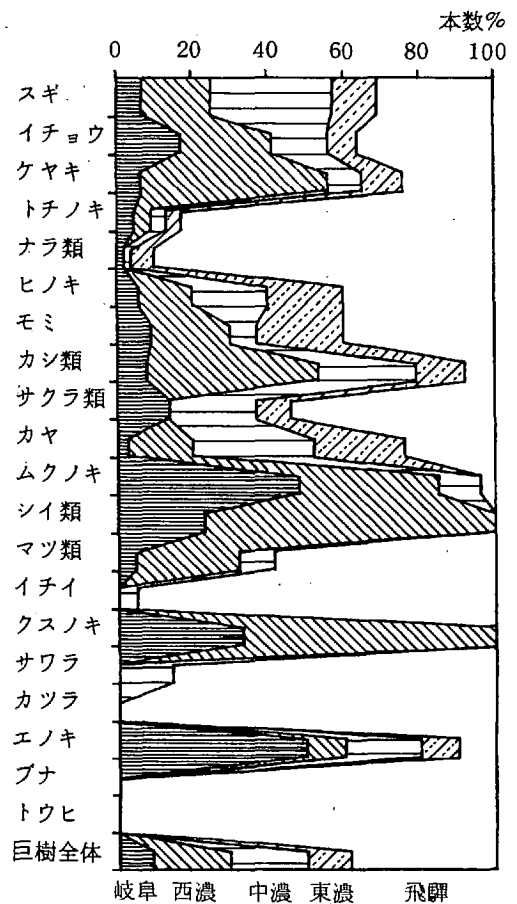


図-4 地域別樹種分布

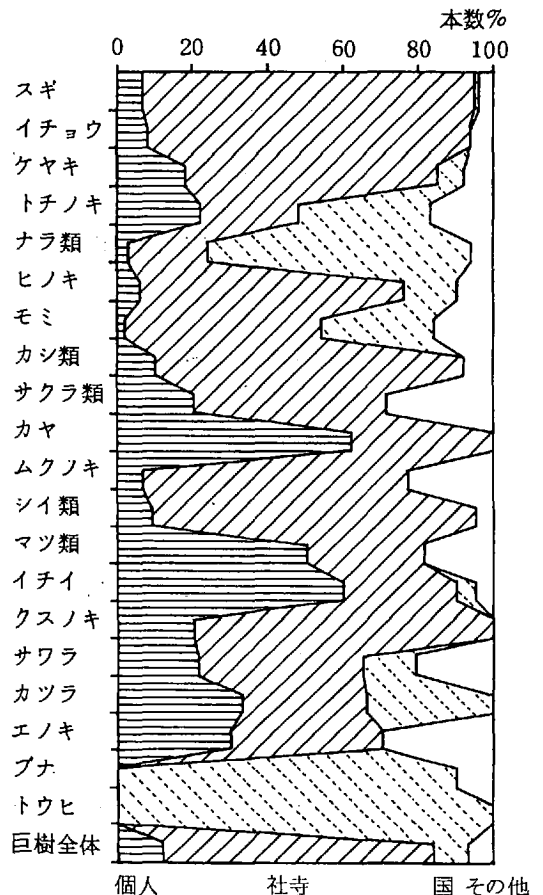


図-5 所有別割合

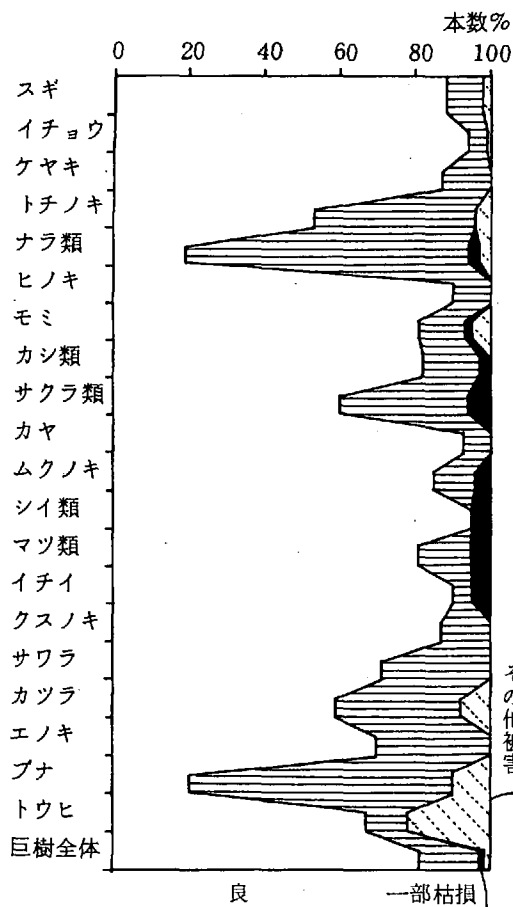


図-6 健全度別割合

明治時代には木材等の需用が多く、ほとんどの森林で樹木の伐採利用が進んでいた(2,3,4)ため、巨樹まで成長する木が少なかったと考えられる。一方、面積は狭いながら社寺の境内地には樹林が多く、木材生産のためではなく宗教的、文化的な為に樹木が育成され、巨樹に生長したものが多かったと考えられる。巨樹まで生長でき得る樹種や巨樹が生育できる自然条件の良いところは岐阜県内に多い。したがって、巨樹が生育するためには、樹木を木材、薪炭材等の経済的価値だけでとらえないで巨樹まで育てていく社会的、文化的背景が大きく影響していたと考えられる。

個人の所有では、カヤ、マツ類、イチイが50%以上と多い。カヤの種子は食用に用いられ、マツ類、イチイは庭園木に用いられる等、樹木が生育することで生活に密着しているため個人所有が多いと考えられる。社寺の所有では、スギ、イチョウ、ケヤキ、ヒノキ、モミ、カン類、サクラ類、ムクノキ、シイ類、クスノキが多い。国有では、ナラ類、ブナ、トウヒが多い。国有林に多い理由として、ナラ類には大径木となりやすいミズナラが多く含まれると考えられること、ミズナラ、ブナは冷温帯の極相林型を代表する樹種であること、トウヒは亜高山の極相林型を代表する樹種であること等からして、伐採の進みにくい奥地の森林すなわち国有林に広く生育するためと考えられる。

2.3 健全度

巨樹の健全度は、枯死寸前の状態、枝先等の一部枯損、病虫害等の症状、異常落葉が無く健全かどうかである。巨樹の健全度を図-6に示した。

健全度が高い巨樹の樹種は、全体の81%が健全度良であった。イチョウ、ヒノキ、シイ類、イチイは、90%以上が健全度良で非常に健全な樹種である。しかし、枝、幹の欠損の少ない樹種は、イチョウ、シイ類、マツ類、クスノキ、トウヒであった。これらの樹種に対し、ナラ類、ブナでは健全度良が20%以下であり健全度の低い樹種であり、枝、幹の欠損が多い樹種である。

健全度の低い巨樹は保護管理にあたっては、老齢で寿命に近いのか、個体の特性であるのか、光条件、排気ガス等周囲の環境条件のためか、病虫害のためか等十分に調査検討する必要がある。また、健全度の良い樹種についてはこの状態が今後も長く続くのか、あるいは健全度の悪いナラ類、ブナについては健全度が悪い状態でも長く生育し続けられるのか、今後検討する必要がある。

2.4 樹齢

巨樹の樹齢を図-7に示した。

巨樹の樹齢は、正確に調査されることが少なく、また、樹幹腐朽により正確な測定が不能の場合が多い。したがって、この調査でも大部分推定樹齢である。

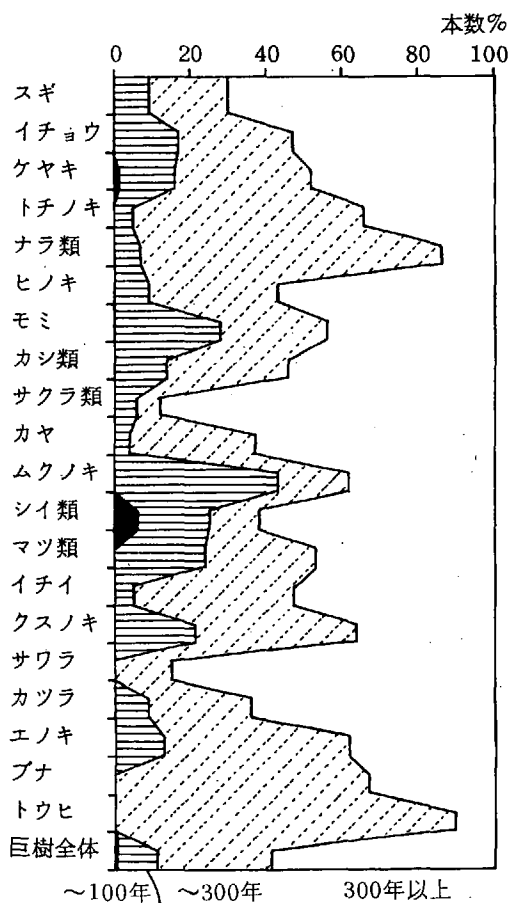


図-7 樹齢別割合

巨樹の樹齢は、全体では300年以上が59%と半分以上を占め、200~300年は30%であった。樹齢300年以上が70%以上と高い樹種は、スギ、サクラ類、サワラであった。スギは、屋久島の縄文スギが日本の生物で最も老齢で推定7000年と言われ(11)、県内でも国指定特別天然記念物である白鳥町の石徹白の大スギが1000年以上と言われ(5)ており、最も長寿の樹種であり大木になりうる遺伝的性質を持つためと考えられる。サクラ類は、樹齢1000年を越える長寿と言われる淡墨桜、臥龍桜等のエドヒガンが老木になりうる樹種であるので樹齢が長いと考えられる。

樹齢の若い樹種は、樹齢100~200年が43%と多いムクノキ、樹齢200~300年が60%以上と多いトチノキ、ナラ類、ブナ、トウヒである。これらの樹種は、樹齢が300年以下で巨樹になり得るが、寿命が長くない樹木と推定される。

2.5 保護

文化財保護法は、学術上貴重でわが国の自然を記念する植物を天然記念物として指定できる。植物関係の天然記念物指定基準の第1項には名木、老木、畸形樹、栽培の原種とともに巨樹が掲げられている。「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」では、健全でかつ樹容が美観上特に優れている樹木が保存樹として指定でき、巨樹であるだけでは保護できない。森林法、自然環境保全法、自然公園法等の法律では、地域、森林を保護の対象としており個体である巨樹だけを保護しない。したがって、巨樹を直接保護できるのは文化財保護法の天然記念物指定であり、この指定状況を図-8に示した。

巨樹が天然記念物に指定されているものは全体で32%あり、このうち国指定が1%、県指定が11%、市町村指定が20%であった。ただし、天然記念物の指定の中には、個体としての指定と、社叢林等の地域指定とが含まれている。

天然記念物に指定してある割合の多い樹種は、サクラ類、カヤ、イチイが70%、エノキが50%以上である。これらの樹種は、固有名称を持つものが多く、居住地域に多いなど地域の住民の関心が高い樹種と考えられる。反対に、ナラ類、ブナ、トウヒは天然記念物指定が10%以下であり、固有の名称があるものが10%以下と少ない。これらの巨樹は、奥地林に生育することが多く、住民の関心が少ないためと考えられる。

岐阜県内の巨樹は1490本であり、県内の99市町村に平均的にあるとすると1市町村当たり15本と少なく、巨樹を天然記念物に指定して保護すべきと考えられる。巨樹には樹勢が弱く枯死寸前で天然記念物指定後の保護管理に問題のある樹木、天然記念物に指定されると制限が加わるため所有者が指定に反対する樹木等があると思われるが、岐阜県内には植物に関する県指定天然記念物が172件(9)、国指定天然記念物27件(1)とそれぞれ全国で第1位と最も多くなっており、貴重な植物を天然記念物として保護しようとする取り組みは他県に比べ進んでいると考えられる。

主な巨樹10種について幹周囲別の天然記念物指定状況を図-9に示した。

おおよそ太い樹木から天然記念物に指定され、太いものから国、県、市町村の順に指定される傾向が認められる。

2.6 周囲環境

巨樹、巨木林の周囲の状況について、樹林、公園、耕地、建物群、道路、水面、その他に分けて調査した。巨樹の周囲環境を図-10に示した。

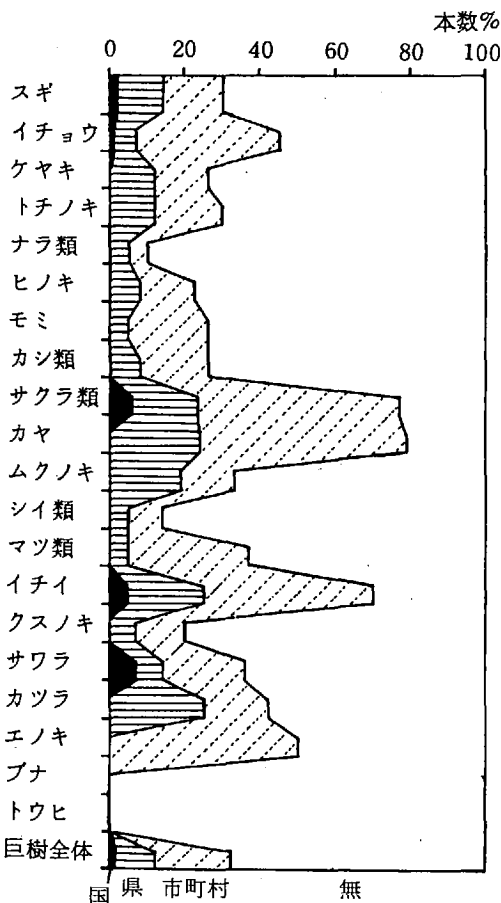


図-8 天然記念物指定状況

巨樹全体では、小面積の樹林に生育するものが58%と半分以上を占める。樹種別に見ると、ブナ、トウヒの巨樹全てが大面積の樹林に生育している。大面積の樹林に多く生育する樹種はトチノキ、ナラ類、カツラが半分以上占める。これらの巨樹は、巨樹だけでなく周囲の森林全体を保護しなければ十分な保護対策とならない可能性がある。小面積の樹林に多く生育する樹種は、スギ、イチョウ、ケヤキ、ヒノキ、カシ類、シイ類、サワラが半分以上である。

2.7 立地環境別分布

巨樹の標高別分布を図-11に示した。

岐阜県内の巨樹は、標高0m～1840mの広い範囲に分布し、森林帯では暖温帯、冷温帯、亜高山帯の範囲である。樹種により標高の分布が大きく異なっていることが認められる。しかし、生育の多い標高は、800m以下で85%を占める。最も標高の低い暖かい地域に分布するのは、クスノキで標高2～80mである。反対に、最も標高の高い寒い地域に分布するのはトウヒで、標高1540～1840mで標高差が非常に狭い範囲であった。標高200m以下には、クスノキ、カシ類、ムクノキ、シイ類、エノキの半分以上が分布し多い。また、ケヤキ、イチョウも44%とかなり多い。標高200m以下の地帯では、美濃地域南部のみに分布し濃尾平野とその周辺部に位置する。標高600～800mでは、モミ、イチイが約40%とかなり多く、やや寒い気候が生育に適していると考えられる。標高1000m以上では、ナラ類、ブナ、トウヒが60%以上と多い。冷温帯林は藤橋村、宮川村等の県境豪雪地域で約400m以上、積雪が1m以下と少ない地域では約800m以上に分布するため、冷温帯林の代表的樹種であるブナとミズナラの多いナラ類は、巨樹に生育するには標高のやや高い地域が適しているか、または標高の高い奥地で伐採を免れたために残ったと考えられる。

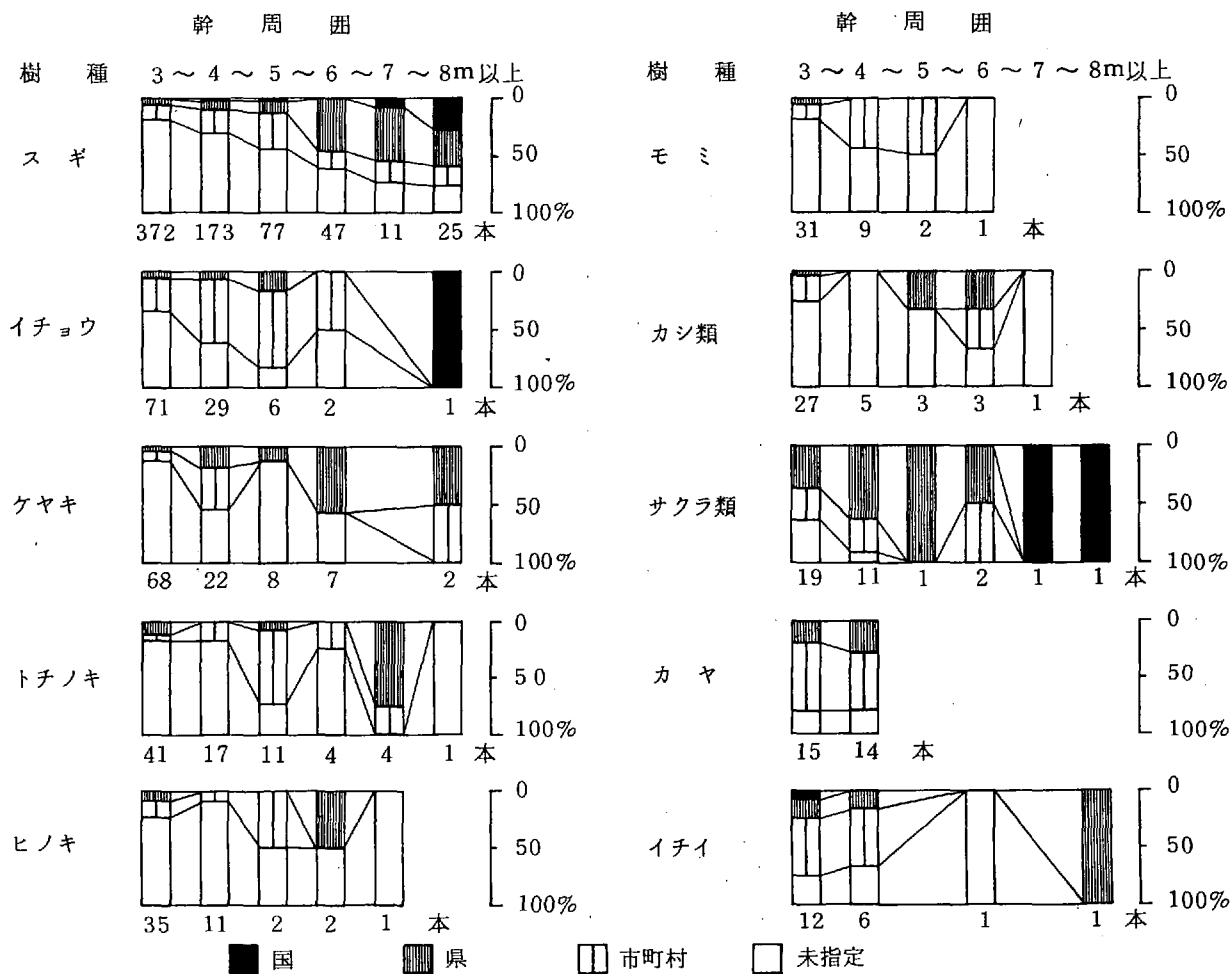


図-9 幹周囲別の天然記念物指定状況

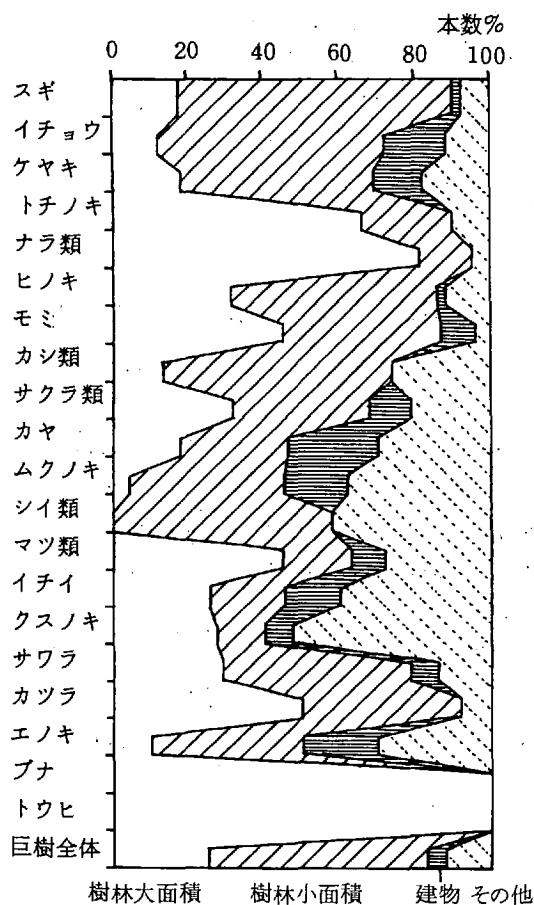


図-10 周囲環境の状況

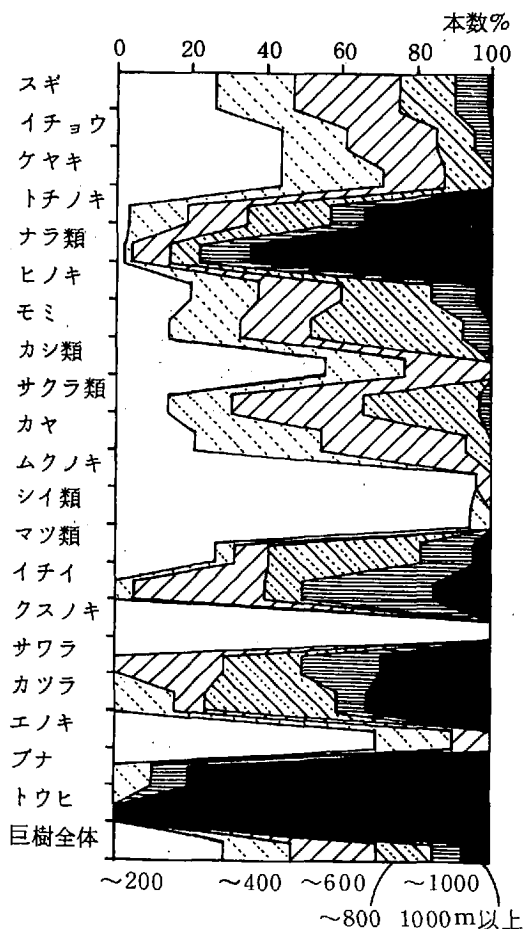


図-11 標高別分布

巨樹の地形別分布を図-12に示した。なお、岐阜県内では山地が大部分の面積を占めており、平地が濃尾平野、濃尾平野周辺、山間の盆地に分布し、丘陵が平野、盆地周辺に分布している(8)。

地形別の巨樹の分布は、全体では山地の谷と斜面で合計約60%と山地で多い。山地の尾根では、土壌の乾燥が大きいためか谷、斜面より非常に分布が少ない。樹種によって分布の多い地形が異なっている。ムクノキ、クスノキ、エノキは、大部分が平地に生育する。イチイは、丘陵の谷に多い。山地の谷には、ナラ類、サクラ類、サワラ、カツラ、トウヒが50%以上で多い。山地の斜面には、トチノキ、モミ、カツラ、ブナが50%以上で多い。

巨樹の斜面方位別分布を図-13に示した。

斜面方位別の巨樹の分布は、全体では平坦地が36%で最も多い。Nが7%で最も少ない。巨樹の所有が社寺で高く、社寺の立地が日当たりの良いSを中心にしたW、E向きに多いためと考えられる。木材生産のためには、一般にN、E向きの斜面の方が、土壌の水分条件が良いため生長が良く、好ましい方位とされている。しかし、N向きが少ないことは、ほとんどの樹種にとって光が十分に当たる方位で巨樹になりやすかったと推測される。トウヒは、約90%の分布とN向きが多い樹種である。ブナは、60%の分布とW向きが多い。平地に多く分布するムクノキ、クスノキ、エノキは、70%以上と平坦地に多くなっている。

イチョウ、ケヤキ、カシ類は、約50%と平坦地に多い傾向である。

2.8 巨木林

巨樹が15本以上生育する巨木林の所在を表-2に示した。

巨樹が15本以上と多く生育する巨木林の場所は、23箇所あり樹林21箇所、並木2箇所であった。地域別では、飛騨が最も多く9箇所、中濃7箇所、西濃5箇所が多い。所有別には、社寺が16箇所と多く次いで国有が5箇所である。巨木林に多く生育する樹種は、スギが多い。ただし、国有の4箇所は、白山の東側斜面に当たる白川村大白川でナラ類、トチノキが多い。

まとめ

1988年度に実施した巨樹・巨木林調査資料を解析した結果、岐阜県内における巨樹、巨木林の生育状況は次のとおりであった。

- 1 岐阜県内における巨樹の分布は、飛騨地域が573本で県内の38%を占める。
- 2 巨樹、巨木林は、社寺の所有が約70%と多く、土地の

面積では広い個人有、国有、公有では少なく、巨樹が育つためには社会的、文化的背景が大きく影響している。

3 スギ、ナラ類、ブナは巨樹が複数で生育するが、サクラ類、カヤ、ムクノキ、マツ類、クスノキ、イチイ、カツラ、エノキは巨樹が単木で生育する。

4 巨樹全体の約80%は健全である。しかし、ナラ類、ブナでは、健全な巨樹が20%と少ない。

5 天然記念物に指定されている巨樹は、全体の32%と低い。

6 巨樹は、標高0~1840mまで分布し、200m以下ではカシ類、クスノキ、ムクノキ、シイ類、エノキが多く、1000m以上ではナラ類、ブナ、トウヒが多く生育する。

7 巨樹の多くは山地に生育するが、クスノキ、ムクノキ、エノキは平地に多く生育し、イチイは丘陵に多く生育する。

引用文献

- (1) 文化庁編 (1989) 史跡名勝天然記念物指定目録. 396pp. 第一法規出版. 東京
- (2) 岐阜県 (1984) 岐阜県の林業史上巻. 679pp. 岐阜県山林協会. 岐阜
- (3) 岐阜県 (1985) 岐阜県の林業史中巻. 708pp. 岐阜県山林協会. 岐阜
- (4) 岐阜県 (1987) 岐阜県の林業史下巻. 828pp. 岐阜県山林協会. 岐阜
- (5) 堀 武義・稲葉左馬吉・牛丸周太郎 (1981) 岐阜県の天然記念物<上>. 196pp. 教育出版協会. 岐阜
- (6) 環境庁 (1990) 第4回自然環境保全基礎調査、巨樹・巨木林調査 (全国版). 237pp. 千代田デイズ・アンド・ムーア. 東京
- (7) 環境庁 (1991) 第4回自然環境保全基礎調査、日本の巨樹・巨木林調査報告書、東海版. 1~9 6
- (8) 国土庁 (1975) 縮尺20万分の1土地分類図、地形分類図
- (9) 大庭喜八郎 (1991) 後継樹の保護・育成・遺伝子保存. 樹木医の手引き. 299~323. 日本緑化センター. 東京
- (10) 大友栄松 (1983) スギ林成長の地域的比較. 新版スギのすべて第12章第2節. 501~508. 全国林業改良普及協会. 東京
- (11) 高橋喜平 (1974) 日本のスギ. 109pp. 全国林業改良普及協会. 東京

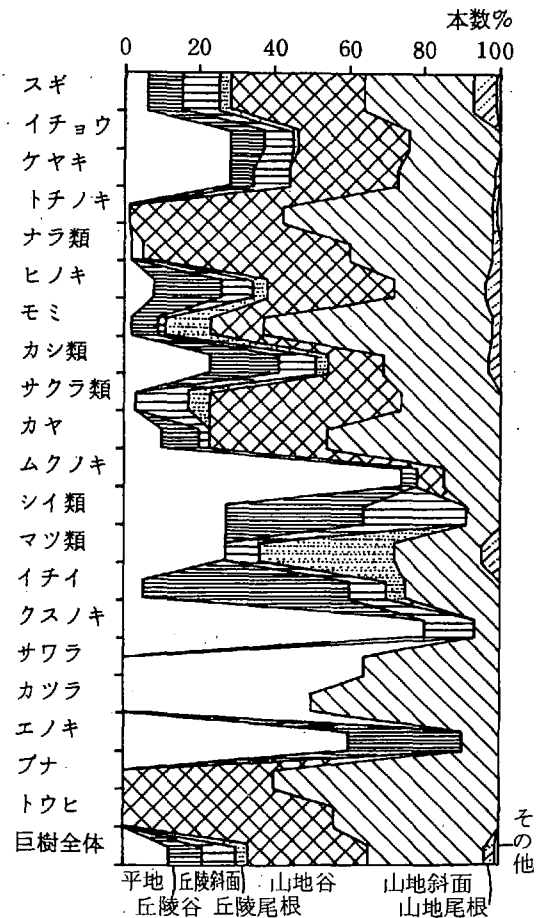


図-12 地形別分布

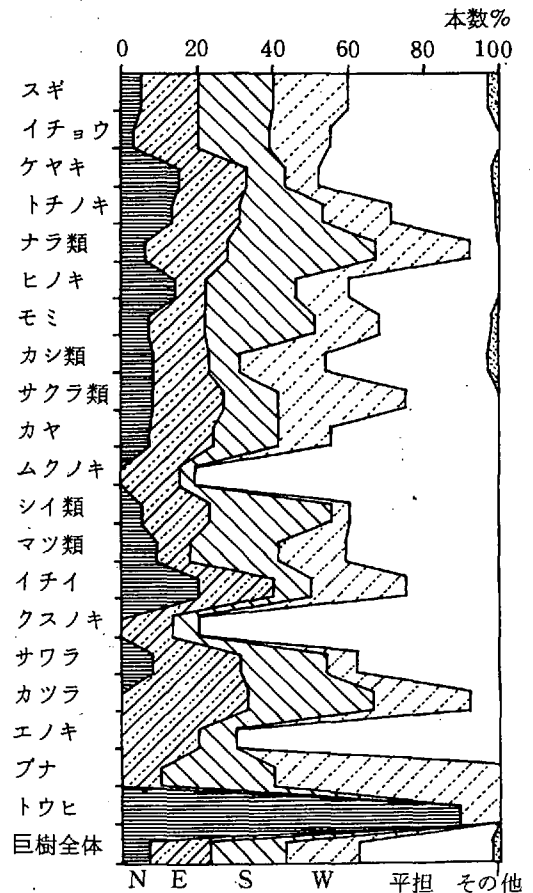


図-13 斜面方位別分布

表-2 巨木の多い場所

No.	所在地	形態	面積等	所有	本数	主な樹種	周囲環境	健全度	名称	文化財	標高	地形	方位
1	白川村 大白川	樹林	ha(m) 46.47	国	本 推定 50	ナラ	樹林大面積	一部枯損			m 1300	山地谷	S
2	白川町 水戸野大山	樹林	3.9	社寺	実測 38	スギ	樹林小面積	良	(白山神社)	国	840	山地尾根	平坦
3	宮村 一之宮上	樹林	3.36	社寺	実測 35	スギ	樹林大面積	良	(水無神社)	県	700	山地斜面	W
4	美濃市 洲原	樹林	1.2	社寺	実測 32	スギ	樹林小面積	良	(洲原神社)	県	100	山地谷	平坦
5	七宗町 神淵寺洞	樹林	0.7	社寺	実測 30	スギ	樹林大面積	良	神淵神社の大杉	国	280	山地谷	S
6	上宝村 穂高	樹林	89.53	国	推定 30	トウヒ、ナラ	樹林大面積	一部枯損			1600	山地谷	N
7	久瀬村 日坂上村	樹林	0.4	社寺	実測 26	スギ	樹林小面積	良	(春日神社)		350	山地谷	S
8	上宝村 在家	並木	(48)	社寺	実測 26	スギ	樹林小面積	良	桂本神社のスギ並木	市町村	640	山地谷	N
9	金山 金山	樹林	0.6	社寺	推定 25	スギ	樹林大面積	良	(柯柄八幡神社)		280	山地斜面	E
10	板取村 川浦	樹林	0.2	個人	推定 23	スギ	樹林大面積	良	(奥の院)		800	山地斜面	平坦
11	白川村 大白川	樹林	201.73	国	推定 20	ナラ	樹林大面積	一部枯損			1000	山地斜面	W
12	山岡町 轟	樹林	0.2	社寺	推定 20	スギ	樹林小面積	良	(神明神社)		500	丘陵谷	N
13	白川町 大白川	樹林	114.3	国	推定 20	トチノキ	樹林大面積	一部枯損			1100	山地斜面	W
14	白川町 大白川	樹林	145.17	国	推定 20	ナラ	樹林大面積	一部枯損			1000	山地斜面	E
15	美濃市 乙狩	樹林	2.3	社寺	実測 19	スギ	樹林大面積	良	(滝神社)		420	山地斜面	W
16	久瀬村 大洞下	樹林	1	個人	推定 19	タブノキ	樹林大面積	良		県	100	山地谷	W
17	春日村 種本	樹林	0.3	社寺	実測 17	スギ	樹林小面積	良	(種本六社神社)	県	410	山地谷	W
18	串原村 中山	樹林	1	社寺	実測 17	スギ、モミ	樹林小面積	良	(八幡神社)		700	山地尾根	平坦
19	美濃市 上条	樹林	1.6	社寺	実測 16	スギ	樹林小面積	良	(六社神社)	市町村	70	平地	平坦
20	春日村 美束	樹林	0.2	社寺	実測 16	スギ	樹林小面積	良	(夏鹿大杉(八幡神社))	市町村	340	山地谷	その他
21	清見村 夏既	樹林	0.6	社寺	実測 15	スギ、モミ	樹林小面積	良	(白鬚神社)	市町村	880	山地斜面	W
22	久瀬村 乙原	樹林	0.3	社寺	推定 15	タブノキ	樹林大面積	良	(大船神社)	市町村	130	山地斜面	W
23	八百津町 八百津木野	並木	-	社寺	推定 15	スギ、ヒノキ	公園	良			140	山地谷	平坦